令和7年度

SAGA ITC

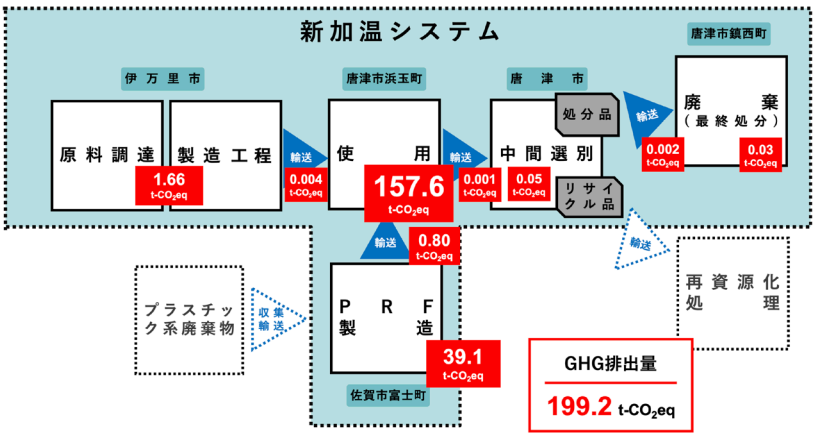
再資源化燃料を用いた新規ハウス加温システムに係る環境影響評価

材料環境部　帆秋 圭司
イマリ・ホットエアタービン　山田 義人

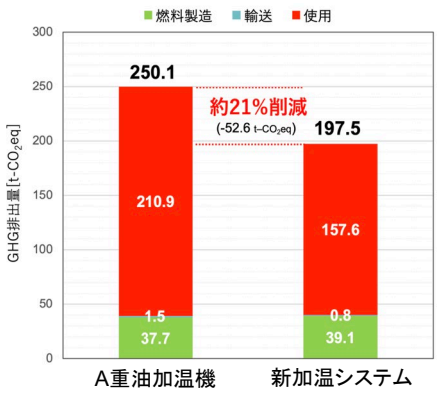
概要　ライフサイクルアセスメント(LCA)手法を用いて新規ハウス加温システムの環境負荷低減効果を評価する研究です。

新規加温システムの温室効果ガス(GHG)排出量を評価した。

装置の原料調達から製造･組立，装置輸送，装置使用（ハウスみかん栽培、7年間），装置廃棄までに至るライフサイクルにおけるGHG排出量を算出した。



新規加温システムの GHG 排出量算出結果



使用段階における
GHG 排出量の比較

○ 佐賀県唐津市におけるハウスみかん栽培用ビニルハウス1棟(3a)に対し，7年間の温熱供給によるライフサイクル全体でのGHG排出量は199.2 t-CO_2eqとなった。

○ 従来のA重油加温機と比較して，7年間の使用段階で約21.0%(52.6t-CO_2eq)のGHG排出削減効果が見込まれる。

◇ 詳しい内容は、研究報告書でご覧いただけます。

【お問合せ先】佐賀県工業技術センター 材料環境部　0952-30-8163